

## 特別展 HAPPY な日本美術

### —伊藤若冲から横山大観、川端龍子へ—

山種美術館（広尾3） 24. 12. 14～25. 02. 24



古くから、人々は幸せな生活を願ってきて誕生・婚礼などの慶事や節句、あるいは日常の営みの中で飾られた図様として、日本美術にはさまざまな吉祥の造形が表現されている。この不安定な世界情勢が続いている昨今だからこそ、当館では皆様の幸せを願って「HAPPY 感が満載の展覧会」が開催されている。

本展では、長寿や子宝、富や繁栄など、人々の願いが込められた美術に焦点をあて、おなじみの「松竹梅」や「七福神」をはじめ、現代のわれわれにとっても、ラッキーモチーフといえる作品が紹介されている。また、ユーモラスな表現、幸福感のある情景など、見る者を楽しく幸せな気持ちにする力を持った作品も展示され、江戸時代の絵画から近代・現代作品までと幅が広い。

伊藤若冲 《鶴図》 チラシ左図

長寿を象徴する「鶴」が、水墨で躍動感溢れる描写によって描かれている。

川端龍子 《百子図》 下部左図

子孫繁栄を象徴する画題で、子供たちが像と戯れる平和な情景である。

横山大観 《心神》 1952（昭和27）年 絹本・墨画彩色 下部右図

富士山の堂々とした姿を描いた作品で、「心神」とは「魂」の意味である。

画伯が手がけた中で、有名な主題は「富士山」で繰り返し描かれている。

《埴輪（猪を抱える猟師）》 チラシ右下のハニワ

狩猟の成功の嬉しそうな表情は、見る者を楽しい気持ちにさせてくれる。

